

令和6年度 第2回 東京都北区おたがいさま地域創生会議 次第

令和7年3月26日（月）午後4時～
北とびあ 14F カナリアホール

I 開 会

II 議 題

1. 高齢者あんしんセンターにおける活動状況

(1) 令和6年度 地域ケア個別会議 開催状況について

2. 第1層生活支援コーディネーター活動状況

(1) 令和6年度 第1層生活支援コーディネーターの活動報告について

(2) 令和6年度 3圏域地域包括ケア連絡会報告について

3. その他

III 閉 会

資料1	委員名簿
資料2	東京都北区おたがいさま地域創生会議設置要綱
資料3	令和6年度 地域ケア個別会議開催状況について
資料4	令和6年度 第1層生活支援コーディネーターの活動報告
資料5	令和6年度 第2層生活支援コーディネーターの活動報告
資料6-1	王子圏域地域包括ケア連絡会報告
資料6-2	赤羽圏域地域包括ケア連絡会報告
資料6-3	滝野川圏域地域包括ケア連絡会報告

東京都北区おたがいさま地域創生会議委員

氏 名	備 考
藤原 佳典	学識経験者（東京都健康長寿医療センター研究所 副所長）
碓井 亘	東京都北区医師会代表
大場 庸助	東京都滝野川歯科医師会代表
阿藤 護	町会・自治会代表
岩脇 彰信	民生委員・児童委員代表
平井 孝明	地域活動（ボランティア）団体代表
小松 栄美子	商店街連合会代表
大場 栄作	介護サービス事業者代表
卜部 吉文	介護予防事業者代表
熊木 慶子	地域包括支援センター（生活支援コーディネーター）代表
小原 宗一	社会福祉協議会（地区担当者・生活支援コーディネーター）
関谷 幸子	シルバー人材センター事務局長
村野 重成	福祉部長
尾本 光祥	健康部長
寺田 雅夫	まちづくり部長

【事務局】

高齢福祉課長	新井 好子	地域福祉課長	田名邊要策
長寿支援課長	飯田 光	介護保険課長	泉 悠己
健康政策課長	鈴木 正彦		

28北福高第2771号

平成29年3月13日区長決裁

(設置)

第1条 高齢者、介護者及びその家族等が住み慣れた地域で安心して、自分らしい生活を続けることができるよう、地域包括ケアシステムを構築するため、介護保険法（平成9年法律第123号。以下「法」という。）第115条の48第1項に規定する会議（地域ケア推進会議）及び法第115条の45第2項第5号に規定する事業を推進するための会議（協議体）として、東京都北区おたがいさま地域創生会議（以下「創生会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 創生会議の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 地域の情報共有及び連携強化の構築に関すること。
- (2) 地域課題の発見及び解決に関すること。
- (3) 地域の社会資源の集約及び活用に関すること。
- (4) 生活支援体制整備のためのサービス資源の開発、人材育成及び人材確保に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、区長が必要と認めること。

2 創生会議で協議された事項は、必要に応じ区長に提言することができる。

(委員の構成)

第3条 創生会議は、区長が委嘱又は任命する委員をもって組織し、委員の構成は、別表のとおりとする。

(任期)

第4条 委員の任期は、前条の委嘱若しくは任命の日から3年を経過する日まで又は東京都北区介護保険条例（平成12年3月東京都北区条例第12号）第14条に規定する運営協議会の委員としての任期が満了する日のいずれか早い日までとする。ただし、任期中に別表の委員の職を離れたときは、委員の職を失うものとする。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員の再任は、妨げないものとする。

(会長及び副会長)

第5条 創生会議に会長及び副会長をそれぞれ1人置く。

2 会長は委員の互選によってこれを定め、副会長は委員のうち会長が指名する。

3 会長は、創生会議を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(招集)

第6条 創生会議は、会長が招集し、会長は、会議の議長となる。

2 創生会議は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 創生会議の庶務は、福祉部高齢福祉課が処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、会長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成29年3月13日から施行する。

付 則 (令和4年3月3日副区長専決3北福高第2686号)

この要綱は、令和4年4月1日から適用する。

別 表（第3条関係）

医師代表

歯科医師代表

学識経験者

町会・自治会代表

民生・児童委員代表

地域活動（ボランティア）団体代表

商店街連合会代表

介護サービス事業者代表

介護予防事業者代表

社会福祉協議会（地区担当者・生活支援コーディネーター）

地域包括支援センター（生活支援コーディネーター）代表

シルバー人材センター事務局長

福祉部長

健康部長

まちづくり部長

令和6年度 地域ケア個別会議 開催状況について

「地域ケア個別会議」は、多職種協働により、①個別ケースの支援内容、②自立支援に資するケアマネジメントの支援や支援ネットワーク構築、③地域課題について、把握・検討を行う会議である。

個別会議で把握された地域課題は、高齢者あんしんセンターの活動の中で把握した課題と合わせ、日常生活圏域における共通課題として課題解決に向けた検討につなげる。

1. 地域ケア個別会議の種類

(1) 地域ケア個別会議

- 1 事例について 60～90 分、地域住民も参加し検討を行うもの。
各高齢者あんしんセンターで 2 事例以上取り組むこととしている。

(2) 介護予防のための地域ケア個別会議

- 1 事例 45 分で多職種専門職で検討を行うもの。
- 概要：対象者の「できること」「したいこと」、暮らす地域の活動やサポートなどの情報に着目して、「自立」「介護予防」について多職種で検討を行う。
 - 検討事例：要支援認定者・事業対象者 16 事例
 - 事例の提供：居宅介護支援事業所および高齢者あんしんセンターのケアプラン担当者
 - 助言者：主任ケアマネジャー、理学療法士、管理栄養士、訪問看護師

2. 開催実績（全体）

(1) 件数

	令和6年度（4～2月末）	令和5年度	令和4年度	令和3年度
件数	37（うち介護予防 16）	49	29	29

(2) 事例の世帯状況、認知症の有無（令和6年度 37 事例中）

世帯状況	対象者数	認知症の有無	
		あり	なし
独居	24	11	13
高齢者のみ世帯（配偶者、きょうだい）	8	6	2
配偶者、子との同居	5	0	5

(3) 参加居宅支援事業所数（事例提供、助言者、傍聴のケアマネジャー延べ人数）

- 北区内 16 事業所（31 名）
北区外 4 事業所（5 名）

3. 会議であげられた課題と考えられる取り組みについて

①介護予防・日常生活支援	
食事・栄養摂取に関する課題	<p>食・栄養に関する関心を高める 高齢者の保健と介護予防の一体的実施事業の活用 元気はつらつサロンへの参加 シニアふれあい食事会への参加</p> <p>男性向けに簡単な料理の講座などあるとよい 十条「花いかだの会」(フォローアップ事業)</p>
口腔フレイルに関する課題	<p>口腔衛生に関する関心を高める 高齢者の保健と介護予防の一体的実施事業の活用 元気はつらつサロンへの参加 地域の活動の場で「お口元気体操」の普及 各種区民健診受診時に他の健診の受診につながる促し</p>
移動に関する課題	<p>通いたい場所までの間に坂道があり、転倒の不安がある</p> <p>移動のサポートがあると従来のつながりの場に通りやすい</p>
専門職同士の支援	<p>介護予防のための地域ケア個別会議の活用、充実</p>
<ul style="list-style-type: none"> 地域や公的サービスで利用できる制度があまりない 健康的な食事を摂れていない可能性がある(特に男性) 健康に配慮した食事の確保(配食サービスの費用負担) 	
<ul style="list-style-type: none"> 歯を良い状態に保つための歯科受診につながらない(居住エリアに歯科医院が少ない、要介護状態になった場合に受診や在宅歯科診療につながる事が難しくなる) 	
<p>通いたい場所までの間に坂道があり、転倒の不安がある</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 栄養、口腔機能向上について、ケアマネジャー自身が相談できるところがない 	

①介護予防・日常生活支援 ②生活支援体制整備 共通	
場、活動の内容に関する課題	<p>本人のやりたいことを把握し活かせる場へつなぐ 多世代交流：子ども食堂、絵本の読み聞かせ活動へ参加</p> <p>地域の関係者が知っている情報を把握する</p> <p>隣接エリアの地域の情報を把握、共有、活用、周知することで補完できる可能性がある 豊島「カムカム健康とよご男子」(フォローアップ事業) 桐ヶ丘・西が丘園「親父のたまり場」</p>
短期集中型サービスなど	<p>参加中からの事業所との情報共有、趣味や特技を活かせる場の情報収集や場づくり</p>
<p>前期高齢者。就労したいとの意向はあるが、健康管理に懸念がある</p>	<p>短期集中予防サービス等を活用し、本人の心身状況の評価、意向の把握 サロンやボランティア参加から取り組む</p>
<ul style="list-style-type: none"> 当該地域に本人が活動したい場として、多世代交流ができる子ども食堂やサロンが少ない 	
<ul style="list-style-type: none"> 男性の集まる場所が少ない。 	
<ul style="list-style-type: none"> 徒歩圏内にスーパー、銭湯、趣味等で集まる場がない 	
<ul style="list-style-type: none"> 短期集中型通所サービス事業卒業後の地域での活動場所へのソフトランディング 	

③認知症支援	
理解、つながり <ul style="list-style-type: none"> 軽度認知症があり、通いの場などに理解が必要 元々地域との接点が乏しい人が認知症になり、支援の介入が難しい 活動の場に参加するために一緒に付き添い、活動もサポートしてくれる人がいない 	<p>通いの場となり得る店舗に認知症サポート店にもなってもらえるようアプローチする</p> <p>認知症のある本人、家族と地域のネットワークづくり。自分事と考えられる社会環境の整備</p> <p>認知症サポーター養成講座、こんちゃんサポーターの普及</p>
気づき、見守り <ul style="list-style-type: none"> 街の電気屋さんでは生活上の困りごとから認知機能低下に気づきやすい(例:エアコンやテレビがつかないという連絡から訪問すると違うリモコンを使っていた) 単身で出歩く認知症のある人の緊急時の対応 	<p>おたがいさまネットワーク協力店、認知症サポート店の普及</p> <p>あんしんセンターとの連携</p> <p>持ち歩きホイッスル(緊急連絡先などの情報用紙入り)(過去に区で配布あり)、救急医療キットの利用</p>
④在宅医療・介護連携推進	
<ul style="list-style-type: none"> 高齢の親と65歳未満の障害のある子の世帯でキーパーソンがおらず、支援者間の情報連携が困難 精神疾患のある高齢者の相談先、参加の場の確保が難しい 比較的若いパーキンソン病の方。認定が軽度になりサービスが不足。地域のつながりが薄い 	<p>サービス事業所、支援者間のMCSの活用</p> <p>地域ケア個別会議での支援や対応の共有</p> <p>介護保険制度以外の制度の利用について連携。患者会など専門職以外のつながりづくり</p>
⑤権利擁護	
金銭管理の課題 <ul style="list-style-type: none"> 公的なサービス(地域福祉権利擁護事業、成年後見制度)につながるまでの金銭管理をサポートしてくれる人がいない 複数回、消費者被害にあっている人。独居、近所付き合いがなく見守りの目が少ない 	<p>見守りの目を増やしたい(民生委員への相談など)</p> <p>本人意向を確認しながら保佐人等による金銭管理を検討</p>

⑥孤立・孤独	
<ul style="list-style-type: none"> 元々地域とのつながりがない、1人での外出が困難になりつながりがなくなってしまった 地域の担い手の高齢化で見守る側も厳しい状態 	<p>相談機関の周知</p> <p>外出できる段階で地域の活動やサロンに参加できるよう普及啓発</p> <p>多世代での地域の見守り 防犯も含め小学校や多世代の人が集まる時に高齢者あんしんセンターや見守りに関する周知</p>
緊急通報システムの課題	
<ul style="list-style-type: none"> 固定電話がないため、区の緊急通報システムが使えない 	

⑦地域共生・他（多）分野	
<ul style="list-style-type: none"> 外国籍の人。利用者支援時のコミュニケーションが難しい 交流の場が身近にない 	<p>翻訳ツールの活用</p> <p>身近な地域に出身国・地域の人のある集まりがあるとよい 外国語を話せる傾聴ボランティアがいるとよい</p>

⑧住まい	
<ul style="list-style-type: none"> 高齢になり火の元の管理が心配だが、都営住宅の電気容量が低く、IH機器にかえられない 	

資料4

令和6年度 第2回 おたがいさま地域創生会議

～第1層生活支援コーディネーター活動報告～



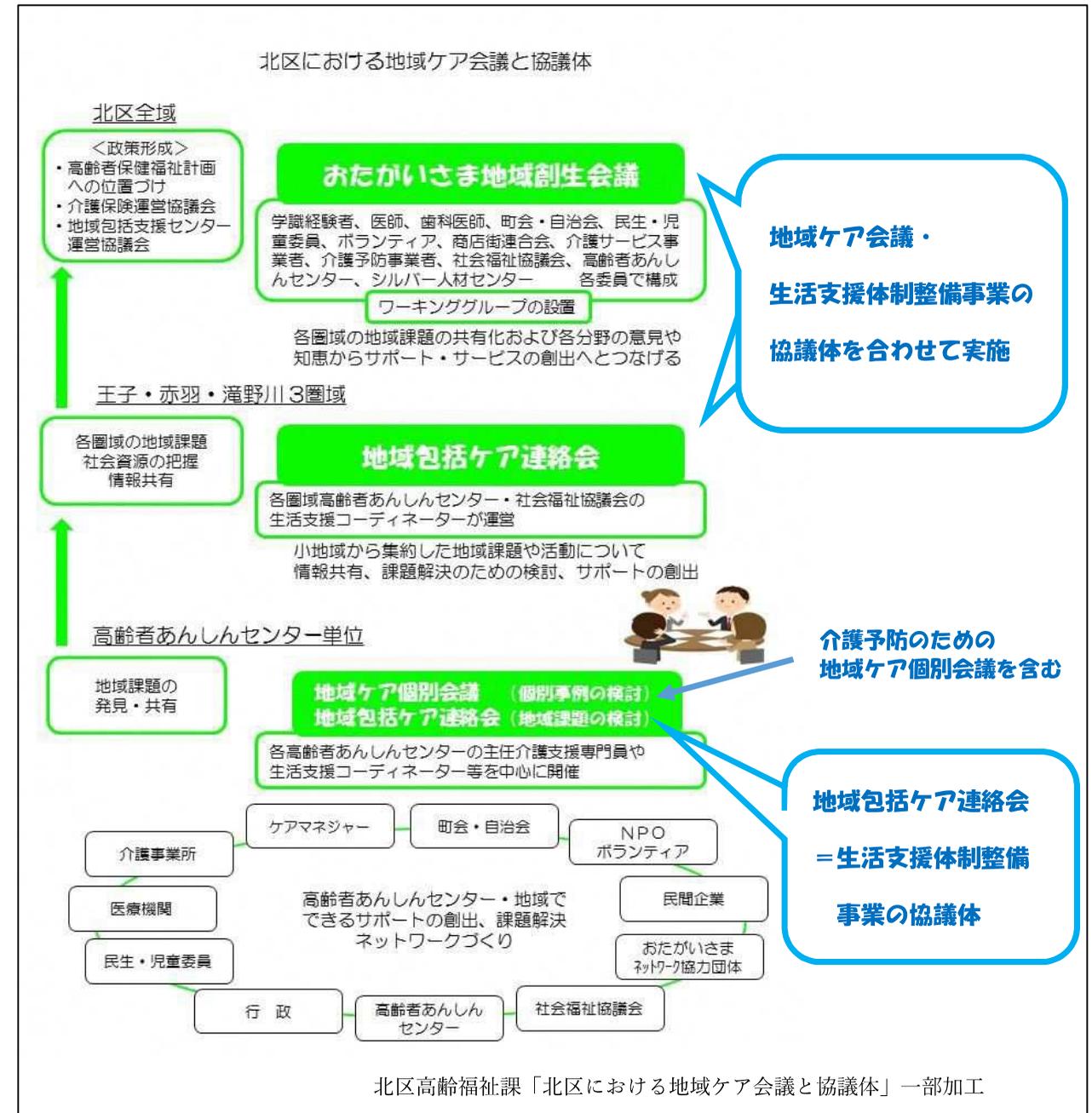
令和6年度 第1層生活支援コーディネーター計画

- 1 第2層ヒアリングを通して、活動状況チェック票新書式を使っての活動目標の共有と、書式の説明
- 2 年次報告書新書式を利用した2層動きの分析
- 3 生活支援コーディネーターに対する研修等の実施
- 4 協議の場の立上げ・運営支援
- 5 区・1層・2層の協働による、地域課題への効果的なアプローチに向けた取組

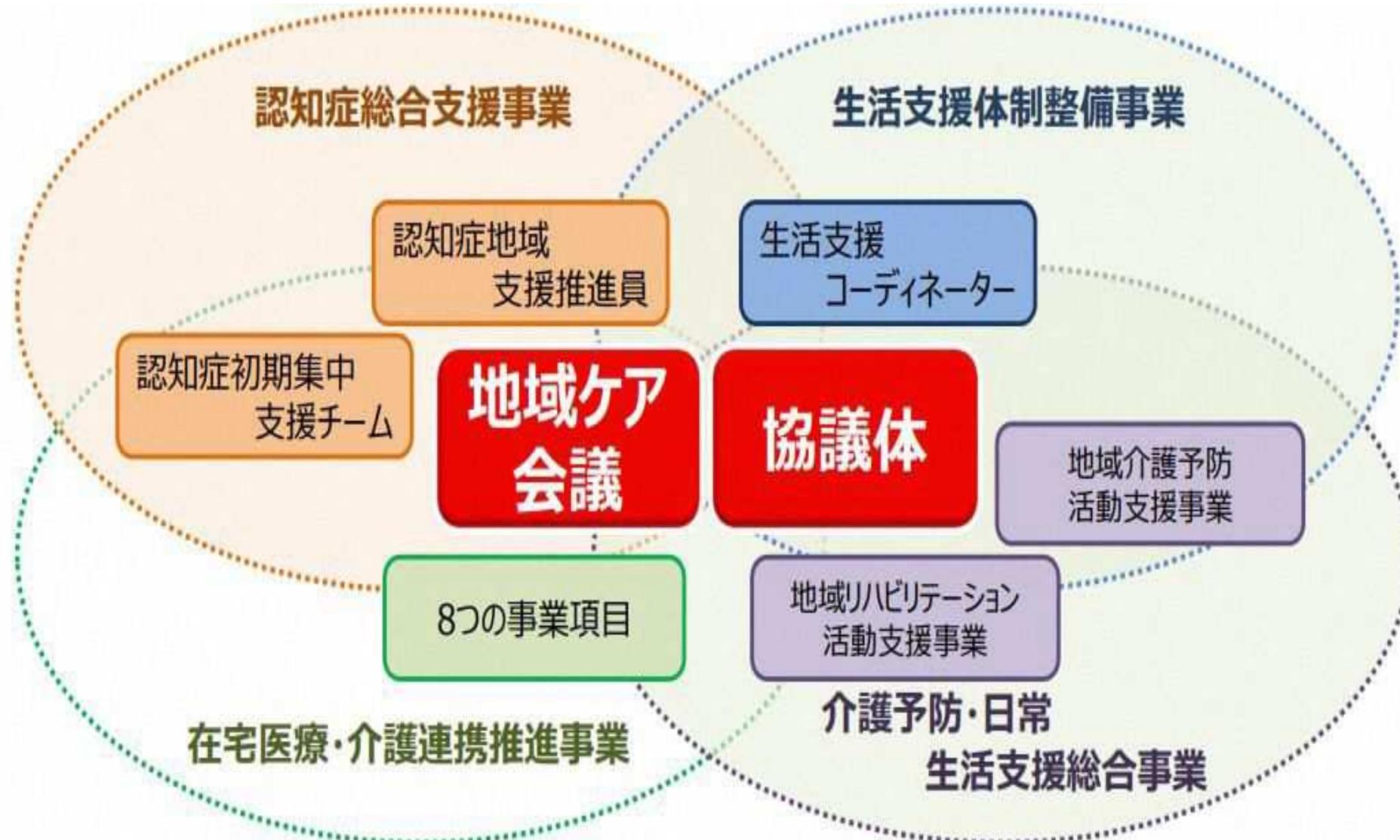
5 区・1層・2層の協働による、 地域課題への効果的なアプローチに向けた取組

＜体制整備事業の充実に向けた取組＞

- ① 令和6年度から第2層生活支援コーディネーター（以下、SC）を交えた課題抽出会議の実施
→地域課題の現場により近い第2層SCとの意見交換を交えながら、生活支援体制整備事業で取り扱う課題を検討。
- ② 地域課題検討の枠組みを圏域別からテーマ別へ
→地域課題の解決に向けて、これまで3圏域（王子・赤羽・滝野川）ごとに取り組んでいる。
→今後、北区全域の視点による課題解決に力を入れるため、圏域を越えたテーマ別での取組を進める方向性で検討している。
- ③ 地域課題の設定に向けた新たな取組
→地域課題はそれを捉える立場や切り口次第で、生活支援体制整備事業や介護予防・日常生活支援総合事業など、様々な分野にまたがる。
→体制整備事業で検討する課題の参考とするため、地域課題を「見える化」するマッピングを作成。



① 課題の取りまとめ →またがるエリアを意識しながらマッピング



厚生労働省/「生活支援体制整備事業と地域ケア会議に 求められている機能と役割について」資料より

「人と人がつながる「場」についての課題が多い

大分野	課題の分野、キーワード	課題
1 介護予防・ 日常生活支援	介護予防	徒歩圏内に通いたい集まりがない
	介護予防	参加者の固定化
	介護予防	住民主体の通いの場づくり（がすすんでいない）
	介護予防	活動の場の創設の限界
	介護予防	短期集中予防サービスの参加者が少ない
	介護予防	短期集中予防サービス参加者が卒業後に参加できる場の把握・周知・増加
2 生活支援 体制整備	介護予防	集う場を作りたいが、安価な場所がない
3 認知症支援	認知症	認知症により地域での交流がうまくできなくなる

4 在宅医療・ 介護連携推進	支援者支援	支援者の負担が増加
5 孤立・孤独	孤立	男性の集いやすい場がない
	地域づくり、見守り	高齢化が進み、地域のつながり（互助力）が弱まっている
7 地域共生、 他（多）分野	共生	障害がある人への対応（がすすんでいない）
	地域づくり	見える化を通じての地域づくり
	地域づくり	住民と共同で行うツール作りを通してまちづくりの推進
	地域づくり	若い人たち・多世代との出会い（交流）の場がない

令和7年度からのテーマ

孤立しがちな高齢者が社会参加できるような

【気軽につどえ、つながる場】について考えよう

令和7年度からのテーマ

孤立しがちな高齢者が社会参加できるような

【気軽につどえ、つながる場】について考えよう

「気軽につどえ」キーワード

- ✓ 自宅から行きやすい
- ✓ 予約をしなくてもふらっと行ける
- ✓ 思い立った時に行ける
- ✓ ふらっと行って、ふらっと帰れる
- ✓ 「町会」「シニアクラブ」などの所属に関係なく参加できる
- ✓ 参加費は無料または安価（1回100円程度）
- ✓ あいている（開催している）日や場所が覚えやすい

「つながる場」キーワード

- ✚ 輪の中に入りやすい（参加したときに仲間・話題・活動に入りやすい）
- ✚ 人との交流によって楽しい時間が過ごせる
- ✚ 自らも活躍ができる機会がある（単なるお客さんではない）
- ✚ 初めての参加でもつなぎ役になってくれるような参加者がいる
- ✚ 場に行くことが生き生きとした生活につながる

令和7年度 地域包括ケア連絡会の流れ

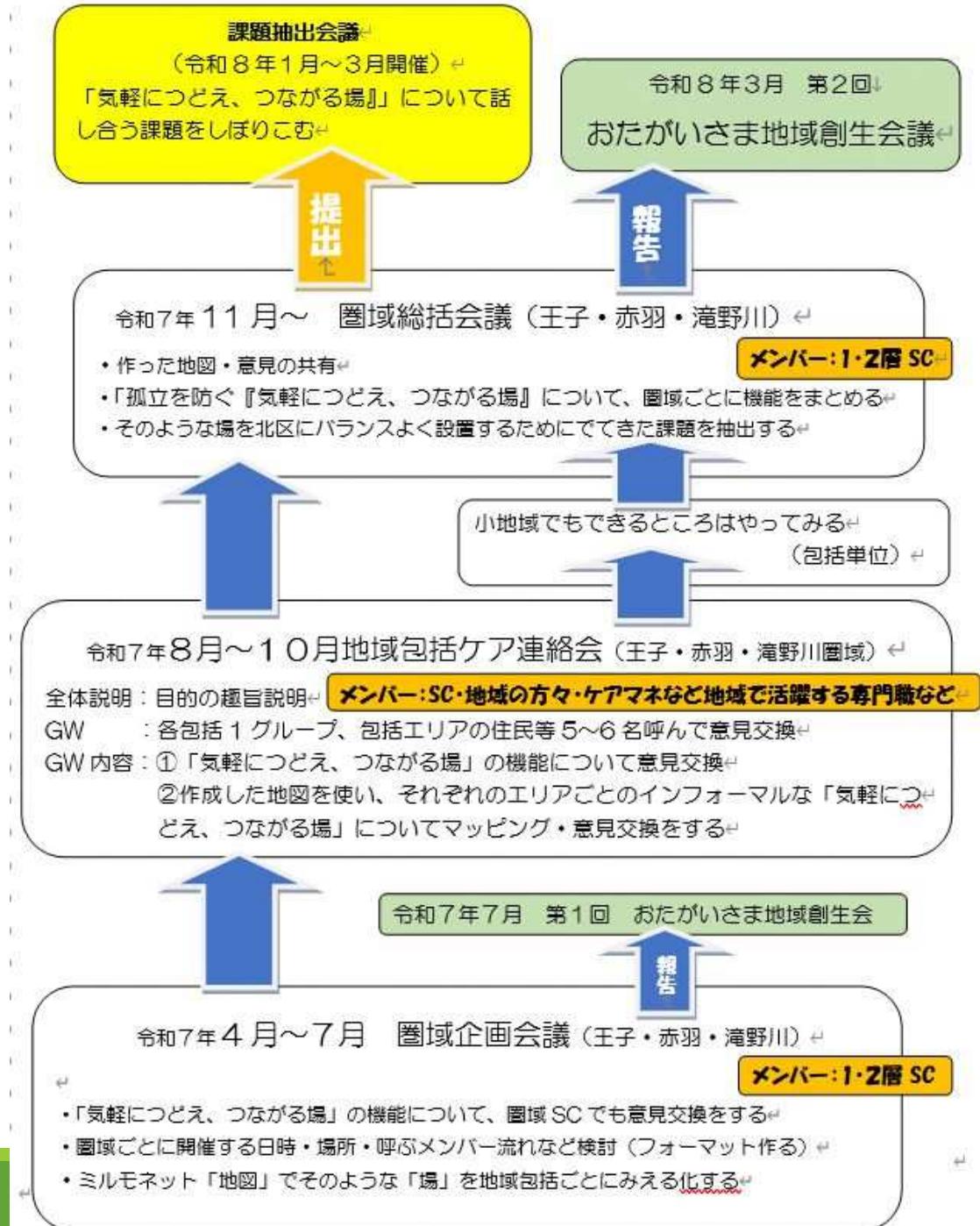
令和7年度は、3つの圏域とも「気軽につどえ つながる場」という共通テーマで地域包括ケア連絡会を開催

<参加メンバー>

各エリアの地域で活躍されている住民の方・
ケアマネはじめ地域で活躍している福祉職員 等

【このテーマで検討したいこと】

- ① 地域住民がだれでも気軽に社会参加できる「場」って
どんなところ？【現在の場の分析】
- ② 自分たちのエリアにはどのくらい必要？（自宅からの距離・北区全体の数・各エリアの必要数イメージ）
【分析を経て具体的な数字の設定】
- ③ どのような機能があればいい？【場の機能の明確化】
- ④ どうしたら地域住民に「場」があることを伝えられる？
【場の見える化・広報】



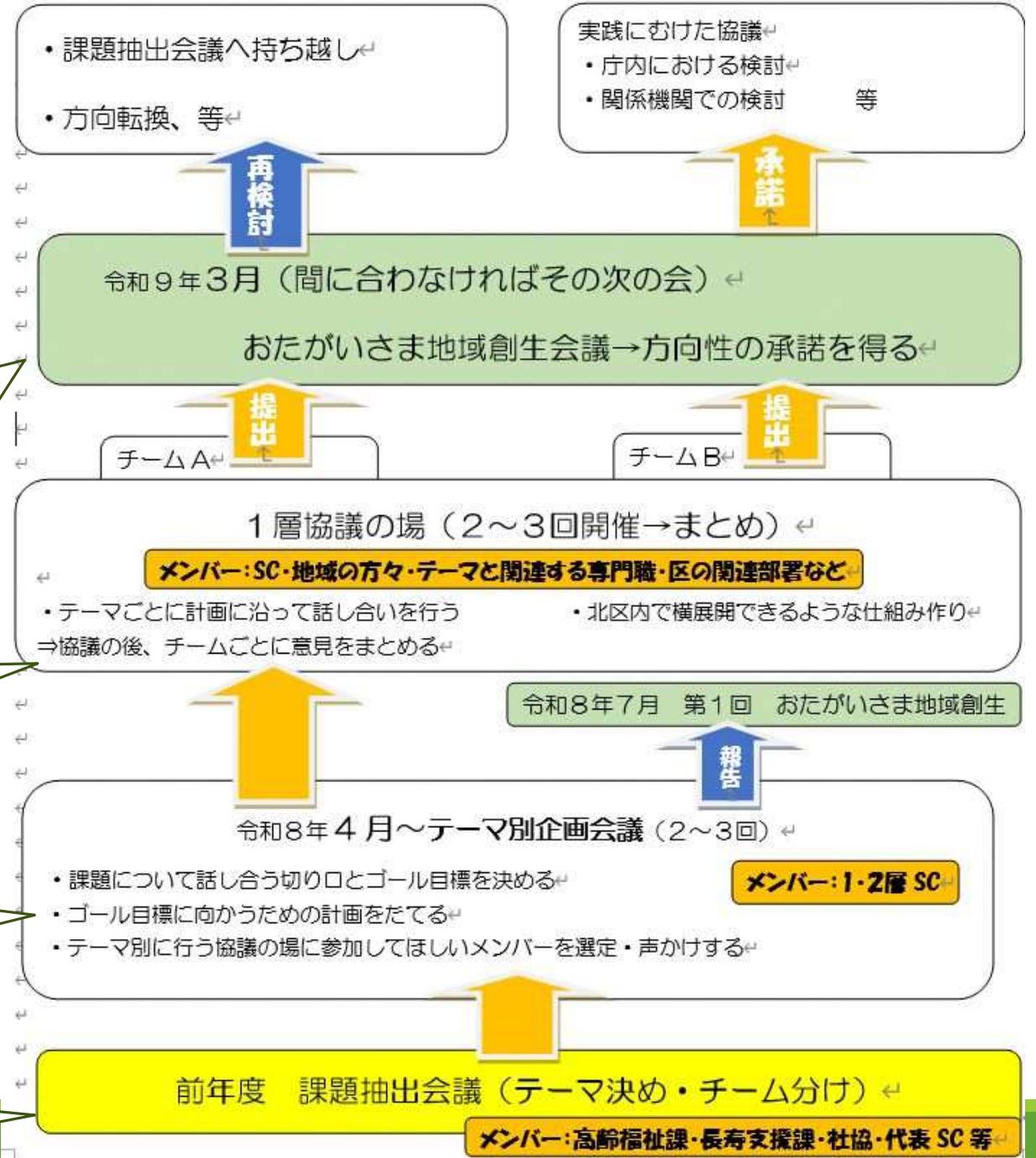
令和8年度 地域包括ケア連絡会の流れ

④おたがいさま地域創生会議に③でまとめた意見をまとめ、提出。
協議をしていただき、方向性について承諾を得ながら、実践に向けた協議へ

③テーマ別に「1層（広域でおこなう）協議の場」で検討を行い、その協議の場で、課題へのアプローチ方法について検討をし、テーマごとに意見をまとめていく

②チームに分かれた生活支援コーディネーターで、協議の場開催に向けての企画会議を行う

①令和7年度にでた「場についての課題」を課題抽出会議で検討テーマ・チームを決め



【北区体制整備事業活動報告～滝西エリア「滝西カフェ」編】

孤立予防のためにだれでも気軽に参加できる居場所を増やしたいと日々生活支援コーディネーターは活動しています。でも素敵な活動をしている場が近所にあっても「一人で参加」をためらってしまうこともあるかもしれません。

滝野川西ふれあい館は滝野川西管内9つの町会協働で「自主管理委員会」を立ち上げ28年間も運営しています。さらに10年にわたり月1回、皆さんが気軽に集える「滝西カフェ」も開催しています。「60歳以上・滝西管内在住のお元気な方」であれば参加OK。一人参加でも寂しくならない工夫をしてくれているので、毎回50名前後の参加があるそうです。

ティータイムあり、軽い運動あり、演奏あり、ゲームありで内容も盛りだくさん！毎回すべての町会から運営を手伝うメンバーがでて、かわいい白いエプロンでもてなしてくれます。皆さん笑いが絶えず、こんなところであれば一人でも気軽に参加できそうです。

地域の方々が自分たちで介護予防や孤立解消に取り組む、お手本のような居場所でした。そんなところを私たちも増やしていけるよう、これからもご指導よろしくお願ひします！



【北区体制整備事業活動報告～～地元スーパーとの連携編】

誰もがいくスーパーは、買い物以外でも「情報提供」という意味でも私たちの生活を支えてくれています。地域の掲示板・北区ニュース・SNSなどたくさんの情報媒体はありますが、意識してみないと情報は流れてしまうもの。特に、高齢の方は細かい字があまり見えなくなったり、社会参加の場の減少などで情報が入らない方も多いといわれています。

そんなことを感じていた十条台高齢者あんしんセンターさんがサミットストアの店長さんと相談をし、入り口付近で「高齢者あんしんセンターミニ紹介コーナー」を作り広報活動を試みようということになりました。サミットに買い物に来ている近隣のエリア担当の飛鳥晴山苑・滝野川西高齢者あんしんセンターにも声をかけ合同の開催です。

金曜日の11時～たくさんのお客さんがいらっしやる中、さっそく「高齢者あんしんセンターってなに？」と声をかけてくれる方が。自分の住んでいるエリアの職員さんと顔を見てお話しできると、より具体的な紹介や相談につながっていきます。2時間ほどの滞在でしたが20名ほど立ち寄って、お話を伺うことができました。

こんな顔の見える相談の機会を、これからも様々な関連機関と連携をして開催していきたいと思っています。



【北区体制整備事業活動報告～王子エリア連絡会編】

毎年北区の中を王子・赤羽・滝野川という3つのエリアに分け、高齢者あんしんセンターと地域の方々と一緒に地域課題について意見交換を行う連絡会が開催しています。今年の王子のテーマは「地域のつながりの大切さ～おたがいさまな寄り添い方」。

みなさんは近隣のあまり付き合いのない高齢者の気になる行動を見てしまったらどのようなアクションをされるでしょうか？

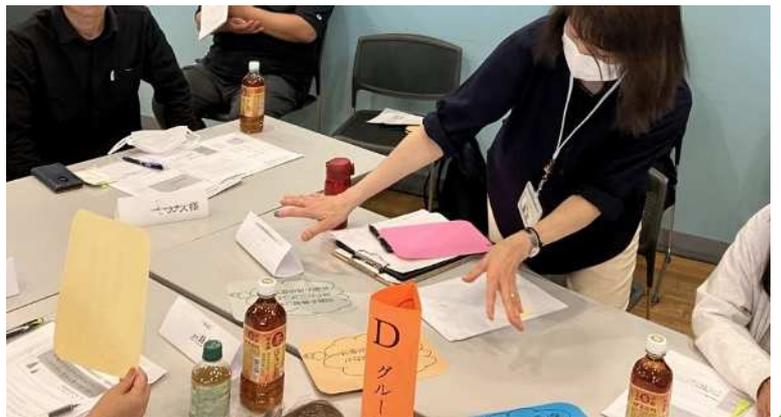
…はじめは様子を見る、すぐ高齢者あんしんセンターへ連絡する、ひとまず声をかけてみる、全く知らない人だと声をかけるのはためらってしまうよね、などいろんな回答が出てきます。

「少しでも顔見知りだったら、もう少し気軽に声をかけて相談にのれるのにね」という声も多く、何か起こってからではなく、起こる前から「少しでも顔見知りになる」というようなゆるやかな

つながりが必要だということを改めて感じた

会議となりました。「ゆるやかにつながる、顔見知りになれる場」を地域の方々と一緒に作っていくのも生活支援コーディネーターの役割の一つです。

今後も地域の皆様方と考えながら、そんな場を一緒に作っていきたいと感じています。



【北区体制整備事業活動報告～昭和町・堀船「ひまわりの会」編】

北区では以前「高齢者ふれあい食事会」という名前で、30か所程度高齢者が楽しく集って食事をとれる場がありました。コロナ禍となり中止になってしまいましたが、令和6年度からは「シニアふれあい食事会」という名称に代わり、区より補助金を受けた団体による食事会の開催が少しずつ始まっています。

堀船三丁目団地の集会所で開催されている「ひまわりの会」もそんな食事会の一つ。月に1回日曜日のお昼に「カレーの会」を開催されています。10人ほどのひまわりの会の皆さんでカレーを作っているそうで、その日は50人余りのお客さんが入れ代わり立ち代わり集会所に顔を出し、おいしいカレーを食べていました。

「こんな近くでやってくれるから本当にうれしい」「今回で3回目だけど、おいしくて3回とも来ている」とすでに常連になりつつある方がたくさん！

また、「あの人がまだ来ていないね。声かけてあげようか」とスタッフの皆さんも細やかに地域の方々に声掛けされていたのが印象的でした。

昭和町・堀船高齢者あんしんセンターの職員も顔を出し、カレーの会の広報をしたり、心配な方に声掛けをしたりといい関係で運営されています。こんな素敵な会が北区中に広がっていくことを、これからも



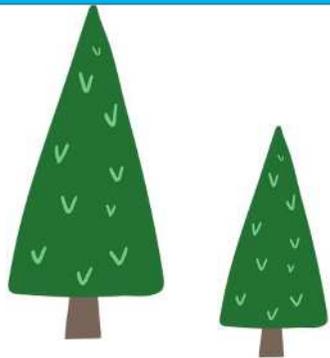
応援していきます

令和6年度
おたがいさま地域創生会議
(令和7年3月26日)

資料6-1

王子圏域地域包括ケア連絡会 報告

「地域のつながりの大切さPart V
～おたがいさまな寄り添い方～」



十条台高齢者あんしんセンター
十条高齢者あんしんセンター
東十条・神谷高齢者あんしんセンター
昭和町・堀船高齢者あんしんセンター
王子光照苑高齢者あんしんセンター
豊島高齢者あんしんセンター
協力：北区社会福祉協議会

令和6年度 王子圏地域包括ケア連絡会

『地域のつながりの大切さ Part V ～おたがいさまな寄り添い方～』

開催：令和6年10月31日（木）14：00～15：30

参加者：32名参加（町会・自治会、民生委員、自主グループ等）

- 1.こんなときどうする？社会資源の案内
- 2.事例紹介
- 3.グループワーク
- 4.発表



これまでの王子圏域地域包括ケア連絡会
テーマは「地域のつながりの大切さ」

令和2年度 part I ～コロナに負けない地域づくり～

- コロナウィルスが蔓延している中、
- ・地域力強化の必要性を再認識した。
 - ・参加者間のつながりが生まれた。

令和3年度 part II ～小さな活動から元気を～

コロナ渦の中、活動を継続・維持するためにどのように乗り越えてきたかについて報告いただきました。

《3つの共通点》①ニーズを把握する力②判断力がある③工夫・企画力がある
《コツ》①できることをやる②過重な負担がない③強制されず楽しい

令和4年度 partIII ～孤立をささえるコツ～

- ・ 孤立事例やDVDより孤立防止のためにできることについて意見交換
- ・ ゴミ捨て、挨拶、声掛け等の意見が多数
- ・ 日頃からのつながりの大切さを確認

あきらめずに声かけを続けること、地域がそっと見守ること、小さな気づきが必要であることを確認した。これからもつなげていきたいと前向きなご意見をいただいた。

令和5年度 partIV ～孤立せず暮らすには～

すごろくを通して認知症体験。

事例を通して、意見交換。

今からつながりをつくること、自ら発信することも大切。

長期的な接点を持つことも大切と知り、人とつながりたい気持ちを持てた会となった。

自己紹介

こんな時どう
する？

「こんな時、どこに相談すればよいか迷うことはありませんか？」と困りごとのカードと相談連絡先のカードを組み合わせるクイズを取り入れ、にぎやかな雰囲気や意見を話しやすい雰囲気づくりを心掛けました。



事例の紹介

相談事例

①～③

①近隣住民から...

「近所の高齢女性が、ごみ出しに混乱している。毎朝ごみステーション付近に立っているのが心配だ」。

②地域の方も気になっていた家。

近隣の方から...

工事会社が入っているのを不審に思い町会長に相談。

リフォーム詐欺に遭っていた。

③近隣の方から...

「向かいの家は、普段裏木戸を閉めているのに、今朝は開いているので様子がおかしい...」。

グループワークでは

- ・関わった生の事例を聞いたのが良かった。
- ・皆さんの事例解決方法などがわかった。マンションや一軒家でも見守りなどについて違いがあり参考になった。
- ・色々な話を聞くことができてよかった。町会で班を作り、見守りをしているところもあって参考になった。
- ・他の方の話が聞いて参考になった。地域を気にかけること、気になる方をみつけ出すこと、気にかけることが相談に必要と思った。
- ・近所とのネットワークの構築が大切だと感じたとともに、世代によってその関わり方が変わり、デジタル化を進める必要があるとも感じた。
- ・ご近所の方であっても、どこまで関われば良いのか分からなかったが、困ったときはあんしんセンターに相談すれば良いのだと分かった。
- ・グループの皆さんが「地域のつながりが大切」と言っているのが印象的だった。ひとりひとりの目が様々な犯罪や困りごとに気づく最初の入り口となると思う。



アンケート 結果



《ご意見・ご感想》

- ・社会資源クイズの「こんなときどうする？」連絡先一覧表はとても役立つと思われるため、町会や家庭に配布したらいいと感じた。知らない方も多いと思う。自主グループや友人にも教えたり家に貼っておこうと思う。
- ・地域のしくみを知らない方が多いと思う。世代の意識を持つことが大事。
- ・困ったらまずあんしんセンターや民生委員に連絡し、パイプ役になってもらうことを学んだ。
- ・地域を気にかけること、気になる方をみつけ出すこと、気かけられることが相談に必要と思った。
- ・他の地区の様々な立場の方々と意見交換ができ、とてもためになり有意義な時間だった。
- ・あんしんセンターに色々なことを相談できることがわかって良かった。相談先を知らない方も多いと思うので、あんしんセンターやその他の相談センターの連絡先を知らせたいと思った。
- ・男性の参加者がほとんどないため、そこの工夫をされると良い。あんしんセンターのS Cの方々の活動が見えた。日頃より頑張っていることに感謝している。

生活支援コー ディネーター として

- ・自分の地域以外の、色々な立場・世代の参加者同士が交流し意見を話し合う良い機会となった。

- ・支援される側の活躍の視点をもつことが生活支援コーディネーターとして大切だと感じた。

- ・若い参加者からはiPhone機能を利用して見守りをしてもらいたいとの意見もあり、世代に合わせた見守り方法を考えていくのも必要と感じた。

⇒今後も地域を支えて下さっている方々の疑問や悩みを引き出し、次に向けて元気になるような場を考え、安心して住み続けられるような地域づくりに努めてまいりたいと思います。

令和7年3月26日(木)

令和6年度 第2回東京都北区おたがいさま地域創生会議

令和6年度 赤羽圏域地域包括ケア連絡会 報告

資料6-2

東十条・神谷高齢者あんしんセンター
西が丘園高齢者あんしんセンター
みずべの苑高齢者あんしんセンター
赤羽高齢者あんしんセンター
赤羽北高齢者あんしんセンター
浮間高齢者あんしんセンター
桐ヶ丘やまぶき荘高齢者あんしんセンター

協力: 北区社会福祉協議会

第1層 生活支援コーディネーター

令和6年度 赤羽圏地域包括ケア連絡会

『地域のつながりを広げよう』

～PART4～

開催日：令和6年12月7日(土)10:00～11:30

参加者：40名(地域の方、学生、先生、ボランティア支援職員等)



これまでの取り組み

令和3年度～お見合い大作戦～

学生と地域の人とのつながりはできたが、お互いに何を求めているかがわからないとの声。



令和4年度～知ることから始まる縁～

学生に地域活動に参加してもらうには、学生と地域の人のお互いに知り、距離を縮めることが大切。



令和5年度～出会い つながり、そして一緒に～

ボランティア支援室とのつながり、先生とのつながりを通して東洋大学内で地域活動団体の皆さんと学生の皆さんとの交流イベントを開催！

地域包括ケア連絡会では地域の皆さんと学生の皆さんが知り合うための交流イベントをグループワークで一緒に考えてもらいました。



令和6年度の活動

学生と地域の人と一緒にイベントを
開催しよう！
盆踊りイベントの実現！



盆踊りイベント実現のために学生と
地域の人と一緒に話し合う場をもつ
企画会を👉実行！



学生と地域がつながる、未来への第一歩

季節の交流イベント
**企画会
参加者募集**

学生と地域の人が「お互いを知る」ための
イベント企画と一緒に考えてくれる
学生の方、地域の方を募集します

交流企画第1弾「盆踊りイベント」企画会

■日時 6/11 (火) 7/9 (火) 9/10 (火)
15:00~16:00 ▼お申込み▼

■場所 東洋大学
ボランティア支援室赤羽台分室

■申込み QRコードよりお申込みください

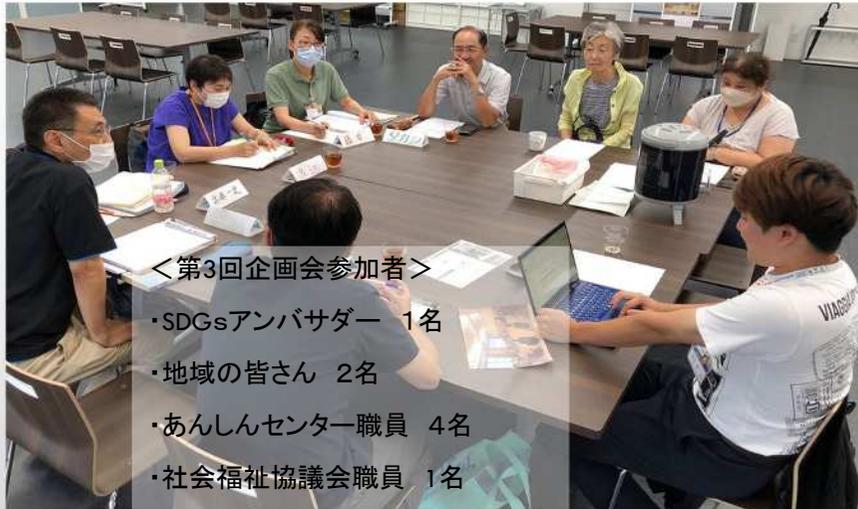


こんな方にオススメ

- ・ガクチカでアビールしたい
- ・地域と交流したい
- ・企画、運営に興味がある
- ・イベントが好き
- ・空きコマで何かしたい

赤羽圏域高齢者あんしんセンター

第3回・第4回 企画会



<第3回企画会参加者>

- ・SDGsアンバサダー 1名
- ・地域の皆さん 2名
- ・あんしんセンター職員 4名
- ・社会福祉協議会職員 1名



<第4回企画会参加者>

- ・SDGsアンバサダー 5名
- ・地域の皆さん 2名
- ・あんしんセンター職員 6名
- ・社会福祉協議会職員 1名

第3回企画会后
チラシが完成!!

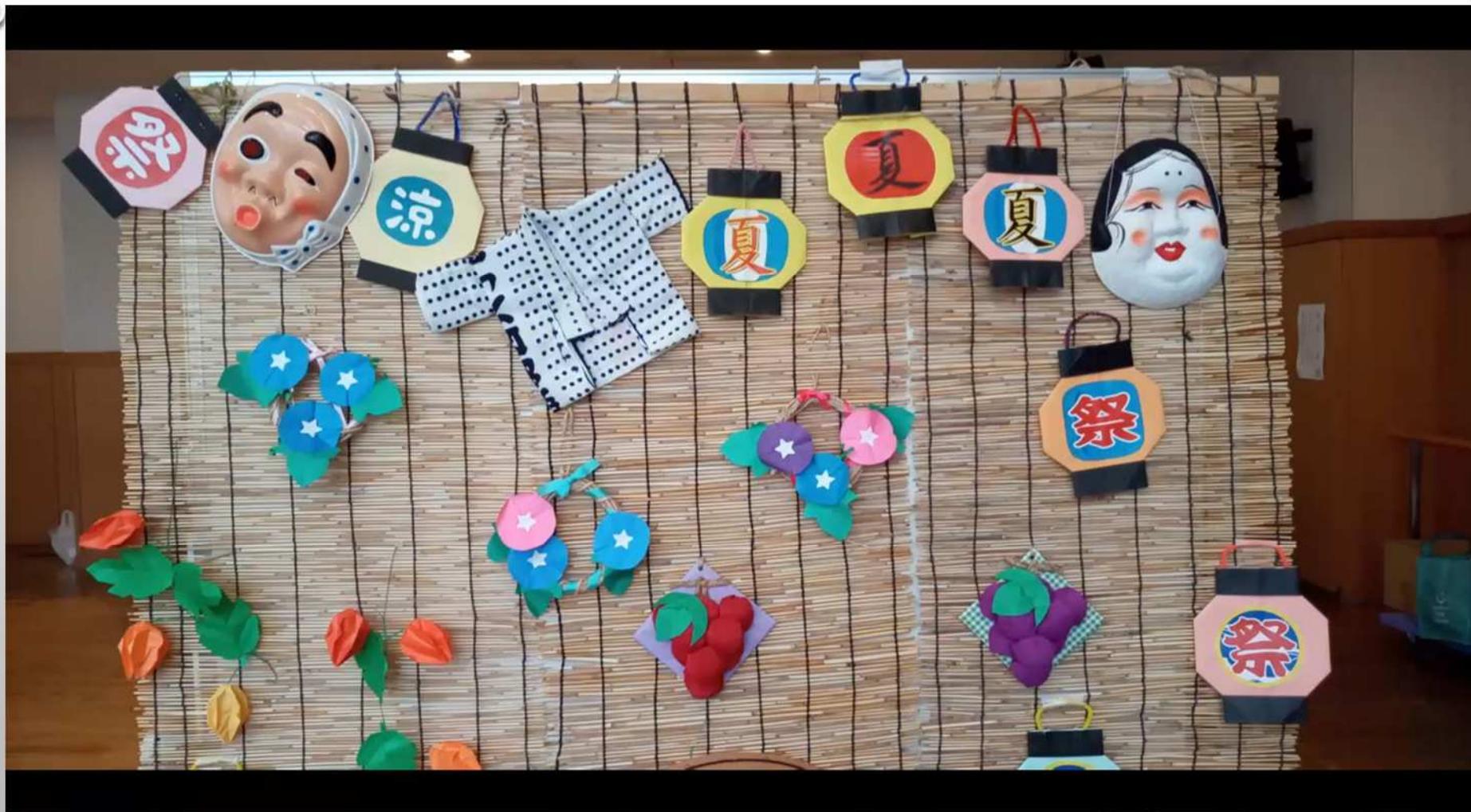


浴衣の着付け

ビンゴ大会の開催

フォトスポット
の設置

～9月28日 赤羽地域×東洋大生企画 盆踊り～



グループワーク1

1. 企画会・盆踊りイベントの感想

○学生

- ・着付け体験など普段触れることのない貴重な体験ができた。
- ・高齢者とお話ができる機会となった。
- ・予想以上に楽しかった。もっと多くの人に体験してもらいたい。
- ・学生の参加については、学内での周知方法を考え、継続していくことが大事。

○地域の方

- ・若い人と一緒に楽しめた。普段は80代での活動が多いのでエネルギーをもらった。
- ・着付けの対象者が増えて大変だったが、浴衣の有効活用ができてうれしかった。
- ・企画会で赤羽台校舎に通ったが、徒歩と自転車の交通手段しかなく行くのが大変。
- ・企画会を重ねる過程やイベントを通して、若い世代の豊かな企画力や柔軟な発想力を感じた。
- ・地域の方は大学キャンパスに関心があり、会場が大学であれば参加したいという声があった。

グループワーク1

1. 企画会・盆踊りイベントの感想

○その他

- ・大学内でのイベントの実施を予定し、企画書を提出したが実施できなかった。
- ・花火大会の日に合わせて、会場が比較的近くて良かった。
- ・イベントは季節など限定されるが、学生は授業やテスト、長期の休みと年間のスケジュールも忙しいので開催日がどうしても制限されてしまう。
- ・学生に対する地域からの苦情もある。学生が地域になじみ、交流することで地域との隔たりもなくなると良い。



グループワーク2

2. 今後も緩やかにつながり続けるためには何ができるか

- ・一人で参加することはハードルがたかい、友人の口コミや評判で決める傾向がある。
- ・申し込みなしで、決まった時間にそこに行けば誰かがいる。気楽な関係が良い。
- ・地域の方は大学を会場とすることを希望されるが、学生には地域を知ってもらうために出る機会を増やしたい。
- ・イベントなどをきっかけに学生は地域に出やすくなる。地域の方も学生とかかわる機会となる。
- ・文化祭で交流イベントを開催することで、音問題は解消され、地域住民も学生も参加しやすくなる。
- ・地域活動のボランティア募集のちらしをボランティア支援室に置くようになったが、大学側から地域への周知が行き届かないため、活用できていない。
- ・赤羽エリアの地域特性を生かし、神社仏閣巡りをたのしいのでは。
- ・北区ニュースに学生とかかわる交流イベントの情報を掲載すると効果があるのでは。

まとめ

○令和3年より東洋大学の学生が地域活動に参加いただけるよう努めてきたが、学生と地域の人と一緒に考え、行動することで盆踊りイベントを開催することが出来、4年間の活動が形となったことは良かった。

○令和3年当初は高齢者あんしんセンターと東洋大学の先生とのつながりのみであったが、活動を継続していくことで、地域の人、東洋大学SDGsの学生、ゼミ生、ボランティア支援室の職員、国際寮など多くの繋がりを築くことができた。学生のグループや各団体の点が多く線の線で繋がることで点が面となることが理想である。

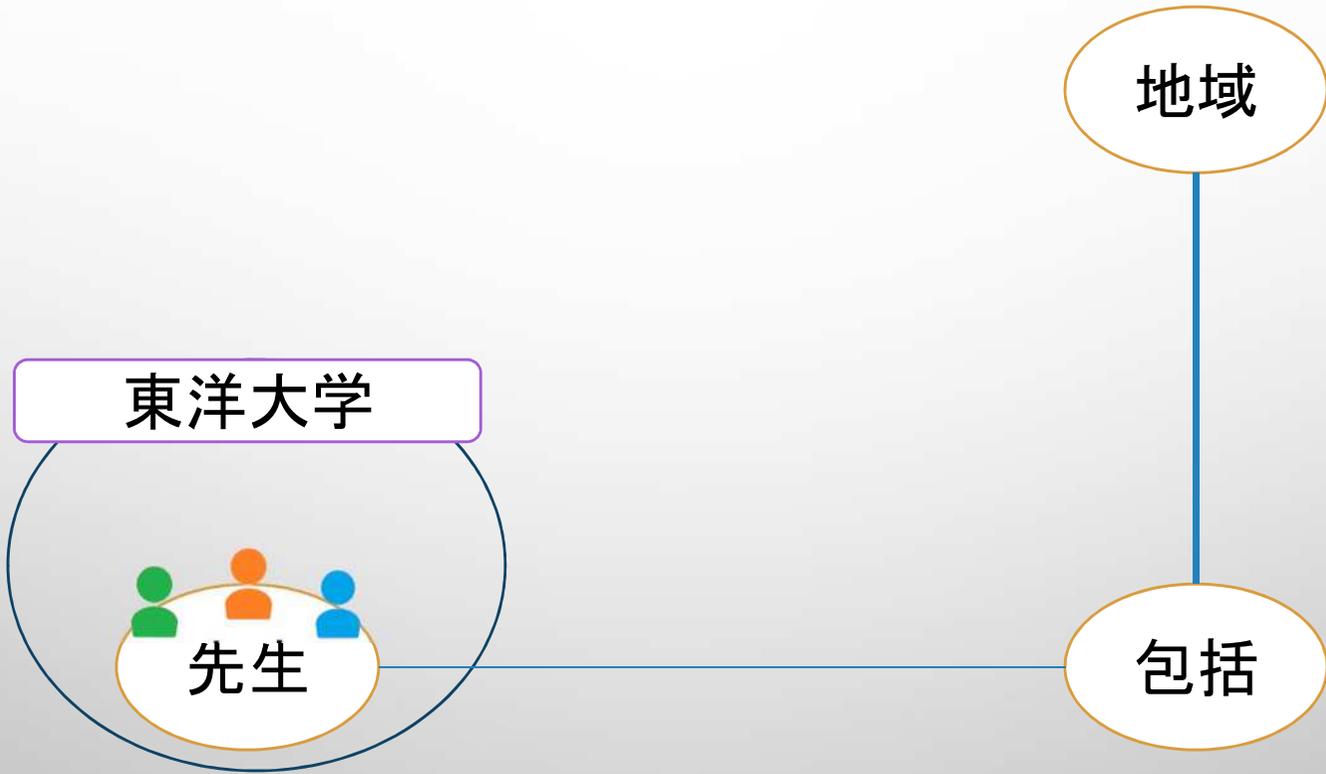
○東洋大学SDGsアンバサダーのみなさんとは今後も一緒に活動していくこととなった。令和6年度活動をもとに多くの学生と地域の人がつながる手段、方法について共に考え、取り組んでいく。

東洋大学



地域

包括



東洋大学

学生

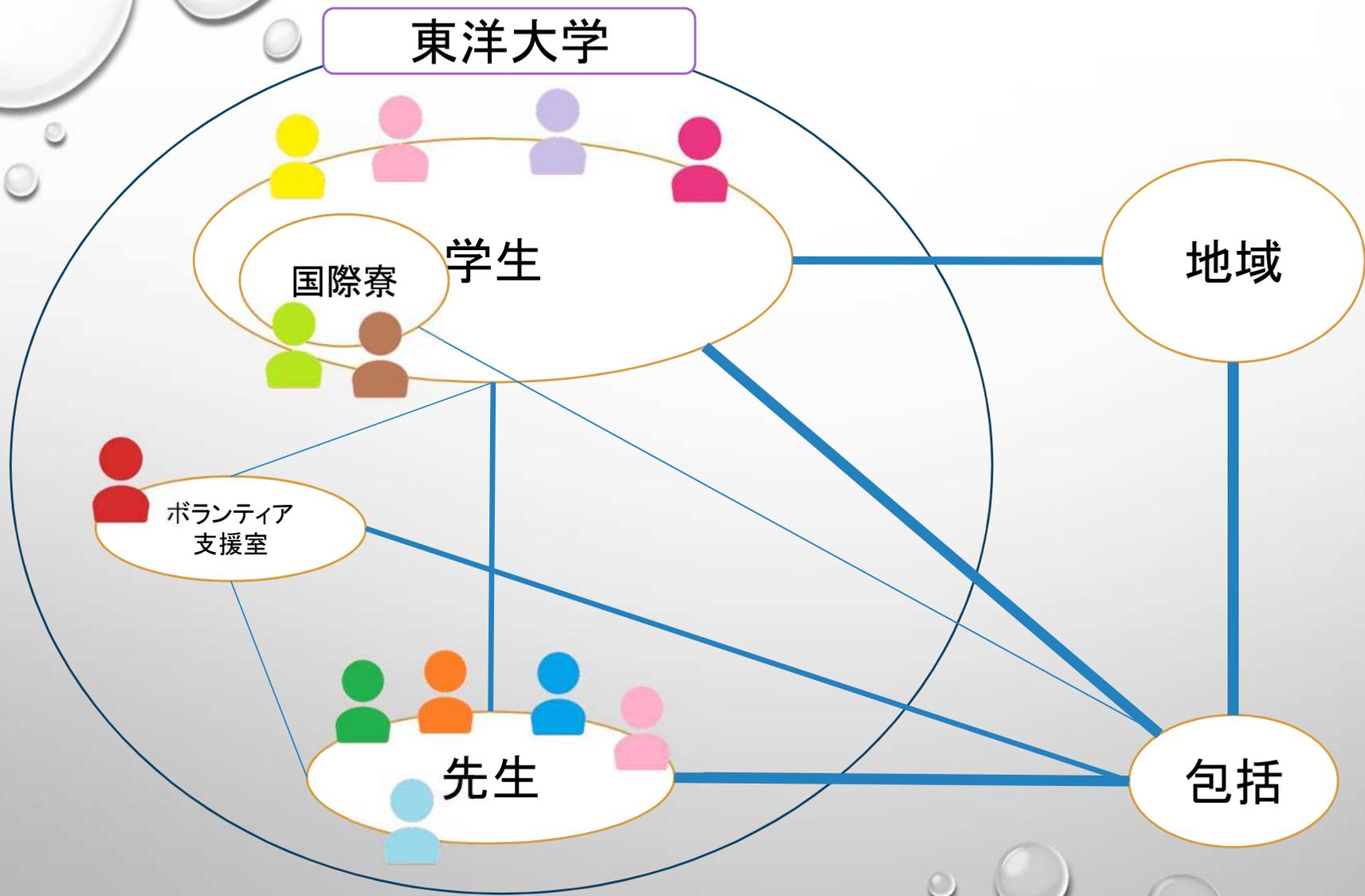
国際寮

ボランティア
支援室

先生

地域

包括



令和6年度 資料6-3 滝野川圏域地域包括ケア連絡会

令和6年11月26日(火) 開催

滝野川西高齢者あんしんセンター
飛鳥晴山苑高齢者あんしんセンター
滝野川はくちょう高齢者あんしんセンター
昭和町・堀船高齢者あんしんセンター
新町光陽苑高齢者あんしんセンター

協力:北区社会福祉協議会

令和6年度のテーマ

「社会的孤立の予防」 ～ひとひひとひが地域で輝くために～

【テーマ設定】

- ・独居、男性の社会参加、8050問題など社会的孤立に関連する課題が深刻化していくなかで、定年後の役割喪失する時期も多様化している。
- ・「孤立予防」の観点で社会参加のきっかけを作るために、50～70才前後の方をターゲット層とした。

【内容】

- ・社会的孤立について共通認識を持つためにミニ講義を行い、事例を2つ紹介。
- ・地域の孤立を防ぎ、支えあうために「気づき・つながり、見守る」仕組みを推進していくネットワーク会議を行った。

【参加団体】

- ・フォーマル、インフォーマル団体合わせ44名が出席。
- ・福祉事業所、薬局、民生委員、自治会、シニアクラブ、NPO法人など多様な団体が参加。

【事例】

- ①他地域から北区に転居してきた男性Aさん(78才)
- ②定年退職後に地域デビューした男性

「社会的孤立について・・・」

「社会的孤立」とは

- 家族やコミュニティとほとんど接触がない状態
- 本人の感情とは関係なく、他者とつながない状態



「孤立」:客観的概念

社会とのつながいや

助けのない、または少ない状態



「孤独」:その人の主観的概念

「独いぼっち」と感じる精神的な状態

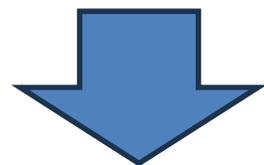
「さびしい」 個人の責任？



- 「孤独・孤立」はそのひと個人の問題ではない
- そうならざるを得なかった環境要因や社会の変化が大きく影響している



- 「孤独・孤立」は
人生のあらゆる場面で誰にでも起こりうる
- 社会全体で対応しなければならない問題



年齢を問われない課題

スライド 6

S1

SUKOYAKA1104, 2025/03/01

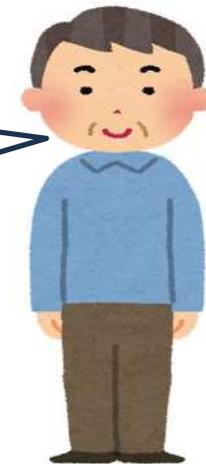
事例1

地域から北区に転居してきた 男性Aさん（78才）



2階建ての一軒家
・
一人暮らし
・
在宅ワーク

引越した
おまかせ



転居後に自治会の活動にも積極的に参加。飲み仲間もできた。



高齢者見守り隊活動

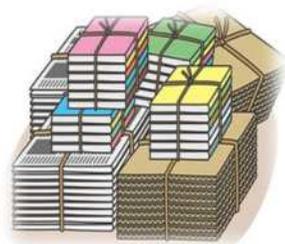


自治会会合



夜間パトロール

防災訓練



リサイクル回収



お酒のおつきあい



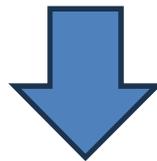
数年前から体調不良が続き 徐々に精神的にも不安が増加・・・。



自治会の飲み仲間も心配になり
高齢者あんしんセンターに相談。



地域の飲み仲間が異変に気が付く出来事
が・・・



Aさんご自宅の2階で倒れており救急搬送となった。

★事例② 「私ないの第1歩」

**地元で生まれ育ちながら、
会社員時代は多忙な生活…**

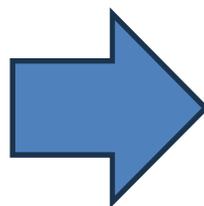
**定年退職をきっかけに地域
デビューした男性に体験談を
語っていただきました！**



★地域デビューまでの道

【定年退職直後の生活】

- ・何をしてもいかわからない...
- ・食べて、飲んで、寝ての生活
- ・家から出ずに1人映画鑑賞



【3ヵ月後の生活】

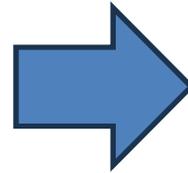
- ・体重増加、体は浮腫み危機感
- ・顔のつながりがあった、自治会の役員へ相談。自治会の配り物を行うなど、身近なところから地域参加するようになった。



★地域活動の実践

【現在の地域活動】

- ★ご近所体操教室(週1回)
→グループのリーダーとして活躍。
- ★自治会の活動
→防犯・防災活動を行う。



【得られたこと】

- ・自身の筋力アップ。
- ・地域交流の機会が増えた
- ・自分自身が活動を楽しみ、
趣味の時間とバランスをとることが大切だと感じた。



★グループワーク 情報・意見交換

【グループワーク内容】

- ①自己紹介
- ②事例を聞いてどんなことを感じたか？
- ③孤立予防のために地域でどんなことができるか？
既に取り組んでいることがあったら教えてください。



【具体的な意見・感想】

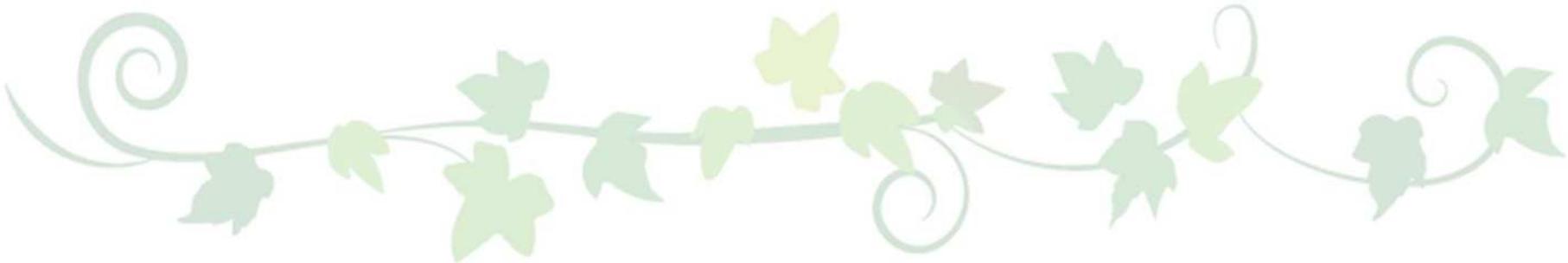
- ・2事例とも「参加者自身のこれから」と重ね合わせて、同じ目線考えられる内容だった。
- ・孤立は高齢者だけでなく誰にでも起こり得る。知恵を出し合い関心を持っていただけることに未来に明るさを感じた。
- ・地域で包括的というより個別性や選べる社会参加の種類があればいいと感じた。

スライド 13

a1

あ

ask109, 2025/03/01



★まとめ

定年退職後、早期に地域活動へ参加できるかが課題。

65歳以上の方でも仕事をしている人の割合は多く、仕事を持ちながらも参加できるコミュニティが必要になってくる。また、多様な地域資源の創出が孤立防止の解決につながる可能性もある。

